

大東町佐世地区 [定住対策について]

Q77

市の定住化はどのくらい進んでいるのか。空き家ストックはどれくらいあるのか。

A

定住対策は、定住推進委員を2名配置し約100世帯、250人の成果がありました。

うち空き家利用者は約70世帯で、そのほかにもまだまだ要望があるので空き家ストックに努めています。

また、今年度、定住対策として県外入居者に対して空き家のトイレ修繕等、上限50万円の補助制度を立ち上げました。その他、未婚率が高いので結婚できる環境をつくる取り組みもしかけています。(政策企画部)

大東町久野地区 [後継者対策について]

Q78

久野地区の人口が732名で65歳以上は281名。高齢化率は38.4%で市の平均を超えている。5年後には44.3%になる見込みである。少子化について結婚していただくことが不可欠である。

地場産業がないために後継者が出てしまうので、若者に帰ってもらうことを考えることが必要であり、親子で話をすることを考える必要がある。また、二世帯住宅、水洗トイレを含めた環境面も考える必要があるのではないかと。

A

後継者(対策)について、(小規模高齢化集落を対象に行った)アンケート調査では、10年後には(後継者が)いないと回答した世帯が全体の6割占めています。

市では雇用の場作りとして産業振興センターを立ち上げ取り組んでいます。結婚対策については晩婚化しており、若い世代の出会いの場作りが必要だと考えています。(政策企画部)

Q79 [集落の維持について]

久野地区は、204 戸 10 自治会で構成されており、自治会世帯数は 1 0 戸から 3 3 戸で、世帯数が少ない自治会で高齢者の世帯は常会に出にくく、残った自治会員で一人何役も担っている。集落の再編が必要である。しかしながら、長年の付き合い、意識があり、長い時間をかけて解決していく必要があるが、市の考えはいかがか。

A

昨年 2 月に高齢化率 4 0 % 以上で、世帯数数 1 9 戸以下の自治会を対象にアンケート調査を実施し、皆様の手元にありますが、詳しくは説明しないのでご一読いただきたいと思います。

自治会統合について、アンケートでは改善に向けて不満の声がありますが、自治会は地縁組織であり、市としては地元と相談しながら進めていきたいと思っています。（政策企画部）

Q80 [少子高齢化対策について]

少子高齢化について、根本的な対策がないように感じている。生れてよかった、住んでいてよかったとも感じていない。そこで市に提言します。同居生活世帯を支持するために、独自の企画として援助する施策を講じていただきたい。

A

同居生活の良さというものを P R する必要があると感じています。貴重な提言として、今後検討させていただきます。（政策企画部）

大東町大東地区 [人口増加対策について]

Q81

広報で人口の推移を調べてみたら、2 年間で 1,000 人弱減少している。男性が 500 人弱、女性が 500 人減っているが、例えば北町は 45 世帯で 3 人家族として、8 自治会が減少していることになる。減少していることに対して、市で分析と対策について検討委員会が開かれているのかどうか、また増加・減少についての内容を広報に記載してはどうか。検討委員会を開くことにより、分析したり、人口が増加に繋がるようなアイデアも生まれる。人口問題については大事だと思うが。

A

毎年 500 人程度減少しています。出生増と自然減の差で、300 人程度の減です。

転入転出は、H20 年が 200 人、H19 年が 270 人、世帯数は微増していますが、世帯当りの人数は減少しています。（市民部）

A

定住対策では、定住推進員を置いて U・I ターン者の受け入れの対策を行っています。実績としては、合併後 100 世帯、250 人位の人に住んでいただいています。

結婚対策も行っていますが、40 代、50 代の未婚者が多い現状です。結婚に感心を持ってもらえるような対策も行っており、子供さんをもうけてもらうような環境づくりも含めて行っています。

また、上水道・下水道の関係の話もありましたが、どうしても上水道もないところには、お嫁に行かれないという話も聞きます。さまざまな要因に対応しないといけないと考えています。

（政策企画部）

A

人口増加対策が一番のテーマで、人口の増減には 2 つの要因があり、自然増と社会増の二つがあります。

自然増というのは、生まれた人と亡くなられた人との差が多いか少ないか、社会増というのは雲南市へ入って来られた方が多いか少ないかで、出られる方が多く、この 2 つの要因があります。

雲南市を住みやすくするには、子育て支援対策、働く場所の確保、社会基盤の整備が必要と考え

ています。（市長）

木次町八日市地区 [結婚支援について]

Q82

木次小学校は生徒数が全校で 200 人を切り、現在 192 名である。来年度は新入生が少なくなり、さらに減少すると言われている。他校も同じような状況ではないかと思われる。雲南市内の若者男性は 2 人に 1 人、女性は 4 人に 1 人が独身であると言われている。人口は今後減少するのみで、雲南市としてこれらの人の結婚支援をすべきと思われる。市として対策がなされているのか、市の考え方を聞きたい。

A

結婚対策については、地域自主組織やまちづくりグループによる結婚相談事業を支援し、推進しています。

現在、地域自主組織 1 団体（西日登振興会・ご縁大使の会）、まちづくりグループ 1 団体（雲南市内縁結びの会）、NPO 法人 1 団体（NPO 明育会）が雲南市地域振興補助金を活用し、結婚相談事業に取り組まれています。

本年 1 月からは、A コープきすき店 2 階会議室を会場に「無料結婚相談サロン」が開設されており、大東町のまちづくり役場でも NPO 法人による結婚相談日が開設されています。現状では、相談に来られる方の多くが男性で、女性の方の情報が少ないためになかなか紹介ができない、また出会いパーティーを企画しても女性の参加者を集めるのに苦労しているといった課題もあるように聞いております。

市としても、こうした活動を支援しながら、また、市内の企業等へも協力をお願いをしながら取り組みを進めてまいりたいと考えています。

また、未婚化、晩婚化対策として、若い世代（20～30 代）の出会い・交流を促進し、自らに合った結婚相手を見つけることができる機会を創出するため、今年度より新たに、若い独身男女の出会い交流創出事業に取り組むこととしています。

結婚は、プライベートな問題でもありますので、一朝一夕に結果が出るものではありませんが、市としても重要な課題として対策を講じてまいりたいと考えています。（政策企画部）

木次町西日登地区 [未婚者の解消について]

Q83

未婚者の解消について、雲南市の 25～50 歳の未婚者数 3,344 人で、男 1 人に女 2 人の割合。西日登振興会では平成 18 年から集落崩壊の危機感から縁結び活動に取り組んでいるが成果が出せない。縁結びにより人口を増やし地区の維持活性化につなげたい。

A

未婚、独身者の解消について、市では定住施策部門の中で担当しています。

未婚化・晩婚化が進み、現在男性は 2 人に 1 人が独身、女性は 20 代後半は 2 人に 1 人が未婚、30～34 歳は 4 人に 1 人未婚です。

市としても少子高齢化が進む中で重要な行政課題です。当地区においては地域を上げて、縁結び活動「ご縁大使の会」いただいており感謝を申し上げます。その他にも市内では雲南市内縁結びの会、NPO 法人明育会が活動しておられ、こういった取り組みに対して補助金を出して対応しており、市として直接に取り組んでいるというわけではありません。

本年 1 月からは A コープきすき店 2 階会議室を会場に「無料結婚相談サロン」が開設されており、大東町のまちづくり役場でも NPO 法人による結婚相談日が開設されているところです。

相談の多くは男性であり、女性については情報が少なく紹介できないという悩みがあります。企業の若い職員の協力を得て結婚対策を進めている状況です。若い方々の出会いの場、交流の場を多く創出する必要があり、今年 J A 雲南、商工会青年部、島根三洋電機、市役所の若手職員等により 20 人ほどのグループを作って出会いの場を創出しようと進めており、今年は 4 回計画していますのでお知らせしたいと思います。

定住の条件については、生活道路や上下水道の整備、携帯電話の不感地帯の解消など、国の経済対策交付金を活用し定住環境の充実に努めているところです。学校や保育所等についても同じく、定住しやすい環境を作っていきたいと思います。（政策企画部）

木次町温泉地区 [定住対策について]

Q84 [市営住宅建設について]

吉田町深野地区に旧村営住宅があり、子どもがたくさんおられるが、温泉に市営住宅を建ててはどうか。市の基本構想の中の「5 つの恵み」の大部分が温泉地区にはある。温泉地区と同等の環境が他にもあり、そういう意味でも雲南市営住宅に特化した住まいづくりが提供してもらえれば、地域自主組織としても期待できる。

A

市営住宅は建てたら入居していただく必要があり、今まで以上に住みたくなる地域づくりが必要です。

ダム湖を生かしたまちづくりを地域で活発にさせていただき、地域外の方が「そんな地域なら住んでみたい」と思っただけのように市としても全力を挙げて取り組みたいと思います。その中で市営住宅建設の可能性についても検討していきたいと思います。（市長）

A

市では定住推進員を設置し、政策企画部で U I ターン定住促進を進めております。現在特に空き屋を使った定住対策を進めており、空き家の登録制度を設け斡旋を進めております。

ただし空き家は水回りや下水が整備不足の点もあり、今年から市では水回り等の 50 万円以上の改修について入居者または家主に対して 1/2 助成をする制度を設けています。

また地域の N P O 法人や地域自主組織による斡旋事業に対してもこの補助を行う方向で進めています。現在非常に照会が多いので、ぜひ温泉地域でも空き家の登録制度を活用されてはと思います。（政策企画部）

Q85 [空き社屋の活用について]

湯村の旧中島製作所の社屋は松江尾道線の高速道路の従業員の宿舎になっているが 10 月末に撤退されるため、その後の社屋について空き社屋を登録し、他の箇所についても機会があるごとに検討してもらいたい。

A

荒木定住推進員と相談しておりますが、10 月以降 J U K I（株）と相談の上元に戻すかどうかも含めて検討したいと思います。

空き工場、空き事務所の登録もしており、企業支援についても産業振興部で支援に全力を挙げております。農商工連携もしており、今後も継続して活動していきたいと思います。（産業振興部）

Q86 [結婚支援について]

結婚支援について、奈良市では市で企画しているらしく、行政が行うので安く安心して参加できるメリットがあり、参加者が増えているようだ。定住対策や地域活性化につながると思うので雲南市でも検討してほしい。

A

結婚問題については、定住対策にとって大きな課題です。合併前にそれぞれの役場や地域で行っ

平成 21 年度市政懇談会（まとめ）

てきました。効果がでておりません。個人情報の問題もあり、仲人的な人材もいなくなりました。今年度からふるさと定住推進協議会を立ち上げ、定住全体の問題に対して取り組んでいきます。地域委員会、地域自主組織の協力をいただき動こうとしており、県の補助事業も内定しています。（政策企画部）

吉田町田井地区 [定住対策について]

Q87

雲南市の人口について若い人がいなくなっている。有益な若者が一人でも多く雲南市へ税金を納めてもらえるような取り組みをお願いしたい。

A

年齢構成のバランスが取れていることが良いが、中山間地の課題は共通です。多くの若い人たちに来ていただける魅力あるまちづくりが急がれます。高速道路がつけば、平成 25 年度だと思いが、吉田は無料で人が来て頂けるような高速道路にして行かなくてはなりません。この地域が魅力ある町となるように皆さんと行政と力を合わせて、多くの人に訪れてもらえるように努めていきます。（市長）